

お米消費拡大に向けて もちもちミルクパンファンを増やし、 全国No.1の普及・拡大を目指す



▲アンパンマンにつられて

岡山県ではJAの農業祭で試食販売を精力的に実施しています。昨年10月10日に開催されたJA阿

子どもの心を掴む販売を

岡山県の取組み事例

J A全農中国生活事業所では、平成21年度に「もちもちミルクパン12万7000ケース」の推進目標を掲げ、J Aと協力しながら、お米の消費拡大の取組みを行ってまいりました。今回は、岡山・鳥取両県の推進グループの取組み事例をご紹介します。

「チョコ味が美味しい！」と子どもが笑顔で頬張る様子を見ると、こちらも自然と笑みがこぼれ、自信をもってお客様にお勧めすることができました。とくにチョコレート味は子どもに一番人気で、自分のお小遣いで買う小学生もいたほどです。「みんな、ありがとう！」



▲手に取りたくなる陳列を心がけて

新の農業祭は天候にも恵まれ、子どもからお年寄りまでたくさんの方が集まり、大いに賑わいました。P O Pのデザインを工夫したり、パンの隣にアンパンマンや風船で作られた動物を飾って、子ども達の興味を惹きつけました。

お米消費拡大の先駆けとして

今では商品の認知度も高まり、米粉フェアとして、もちもちミルクパンと米粉を使った他のエコープマーケ品との関連販売も実施しました。国産米粉ミックスを使った焼きりんごパイや、炊飯器で作ったシフォンケーキをお客様にご試食いただいたところ、「おいしい!」「ぜひ作ってみたい!」とレシビを求められる方が大勢いらっしゃいました。米粉独特のもっちりとした食感が好評で、もっと米粉商品を増やして欲しいといった声もありました。こうした地道な活動が、お米の消費拡大に繋がればと思っています。



▲好評で5枚も焼いた焼きりんごケーキ

農業祭では地元グルメも
たくさんあります



▲お土産に買われたお父さん



▲ケースで次々に売れていきます

鳥取県の取組み事例

ロングライフを売りに！

もちもちミルクパンは、店舗や農業祭でのバラ販売が主流ですが、鳥取県ではロングライフ（アルコールドライフ）の特性を活かしたケース販売を行っています。

今年3月6～7日に開催されたJA鳥取西部の電器・衣料品展示会では、2種類の味の詰め合わせセット（1セット10個入）を準備し、2日間でもちもちミルクパンを売上げました。販売開始当初は「10個も多いなあ」

「50日もつのはちょっと…」とためらうお客様がたくさんいらっしゃいました。

しかし、今ではそのもちもちした食感と美味しさが浸透し、「おやつに送ったら喜ばれた」と、展示会の度に買われるリピーターの方もいらっしゃいます。

JA職員にファンを増やす

「これ美味しいですよ、食べてみて」と、展示会ではJA職員が、組合員に積極的にパンを勧める姿が見られました。実はJA職員の中に、このもちもち食感が楽しめるミルクパンのファンがたくさんいるのです。「私の分をとっておいて」と言う方もいるほどです。自分が好きな商品だから、自信をもってお勧めして頂けるのだと思います。もちもちミルクパン



▲アンチモールドの実物も紹介

のように、広く、多くの方に愛される商品をどんどん増やしていけるよう、お客様の声・現場の声を活かした商品づくりを進めていきたいと考えております。

全国No.1を目指して

岡山県、鳥取県だけではなく、中国地区の五県では組合員、JA職員との触れ合いを大切にしたい。普及・拡大運動を実施しております。子ども達からお年寄りまで、これからも、もちもちミルクパンのファンをどんどん増やしてまいります。